

## 第2学年 図画工作科学習指導案

は組 男子20名 女子20名 計40名  
指導者 所崎 陽

### 1 題材 一ばんおしゃれな動物さんは

#### 2 題材について

##### (1) 題材の位置とねらい

本題材は空き箱の組合せ方を考えながら好きな動物をつくり、折り紙などでおしゃれに飾り付け、自分のつくりたいおしゃれな動物をつくる題材である。

この期の子どもたちは、動物に対してとても親近感をもっており、動物の形や色などにもたいへん興味をもっている。さらに、自分の表したい思いを直接、作品と結び付けて表現してきている。また、これまでの学習で、空き箱を並べたり、つないだり、積んだりする経験を基に、量感を味わいながら立体に表すよさを感じてきている。そして、友達と話したり、作品を見合ったりして友達の考えを自分の作品にそのまま生かす姿も見られる。さらに、自分の表現に合わせてはさみやのりなどの用具を使い方を考え、技能を高めてきている。

そこで、空き箱や折り紙などの材料を使っておしゃれな動物をつくることは、空き箱の組合せ方を考えながら動物の体をつくり、おしゃれな感じが表れるように形や色などを折り紙などを使って工夫していくことでイメージをもって表現することができ、つくりだす喜びを味わうことができる。また、つくりたい動物になるように空き箱の組合せ方や折り紙などを使った飾り付けの仕方を考えながら自分のイメージをもち、形や色などを工夫していくことでつくりだす力を伸ばすことができる。そして、友達の作品を見たり、作品について話したりすることで、お互いのつくりたい動物のイメージの違いや発想の仕方の違い、材料・用具の使い方の工夫などに気付き、感じとる力を伸ばすことができる。また、自分のつくりたい動物の形や色になるように、用いる材料について考えたり、はさみやのりなどの用具を適切に用いたりすることで自分のイメージをもつことができ、知識・理解、技能を高めていくことができる。

このようにして、表現と鑑賞を繰り返しながら、形や色と自分のイメージを関係付け、おしゃれな動物をつくる本題材は、第2学年の題材「どうぶつのおや子」で、大小の動物の組合せを考えながら、親子が仲良くふれあう様子になるように形を工夫する立体の題材へと発展していく。

##### (2) 指導の基本的な立場

本題材で扱う空き箱は厚紙できており丈夫で軽く、子どもたちにとってたいへん扱いやすい材料である。また、さまざまな大きさや形があり、積んだり、並べたりすることが容易で試行錯誤しながら形の組合せを考えることができる。さらに、空き箱をはさみで切ったり、折り紙をのりではったりすることもでき、今までの学習経験や生活経験を十分に生かすことができる。そのため、子どもたちは、このような空き箱の特徴を生かして、形や色などを工夫したり、友達の作品を見たり、作品について話したりし、用具の使い方を工夫しながら学習に意欲的に取り組むことができると考える。

そこで、自分の表したいおしゃれな動物をつくるためには、まず、空き箱の組合せ方を試したり、折り紙の色を選んだりしながら自分のイメージを少しずつ具体化し、発想を広げられるような場を設定する必要がある。次に、表現の始まりや過程、終末で、参考作品や友達と作品を見ながら形や色、イメージなどについて話し合い、自分や友達の表現のよさを味わいながら、自分の表現をより豊かにしていくようにする。さらに、表したい動物の形や色にするために、材料の特徴を考えながらはさみやのりを適切に使って表現できるようにする。

このような学習を通して、子どもたちはつくりたいおしゃれな動物を空き箱などの材料の特徴を生かして、並べたり、積んだりして立体的に表すことを試み、折り紙などを使って飾り付けの仕方を工夫しながら、技能を十分に発揮し、おしゃれな動物を意欲的につくる楽しさや喜びを味わい、創造的に表現していく能力や態度を培うことができると考える。

### (3) 子どもの実態

本学級の子どもたちは、これまでに空き箱や牛乳パック、紙パック、紙皿、紙コップを使って、材料の特徴を生かしながら切ったり、はったりして表現してきている。

図工が好きではないという子どもは4名いる。(※1) その理由として、技能が十分に発揮されず失敗したり、何をつくればいいのか分からないためにアイデアがうかばなかったりしたことが挙げられている。そのため、技能面や発想面に配慮した個別の指導をしていく必要がある。

空き箱を使ってつくりたい動物を考えることについては全ての子どもが考えることができている。(※2) また、その動物にどのような飾り付けをするか考えられなかった子どもが17名いる。(※3) そこで、つくりたい動物のイメージを具体化できるように試しに空き箱を積んだり、並べたりするなどの活動や、飾り付けに使う材料とその使い方について考える場を設け、形や色などからイメージをもてるようにする。

友達の商品について話し合っ役立った経験がないと答えた子どもが34名いる。(※4) 鑑賞のよさを感じていないまま表現をしていることが分かる。そのため、表現の途中で鑑賞の場を設定し、自分の表現に生かせるようにする。

のりの使い方については、3名の子どもが適切に使えていない。(※5) 紙の隅々までぬれていなかったり、量が適切でなかったりする。そのため、用具の使い方について理解を深め、つくりながら技能を高められるような手立てをとる。はさみの使い方については6名の子どもが適切に使えていない。(※6) はさみの先だけで切ってしまうため、切ったところが雑な感じになったり、紙を回しながら切れないため、曲がったところが思うように切れなかったりする。そのため、用具の使い方について理解を深め、つくりながら技能を高められるような手立てをとる。

### (4) 指導上の留意点

ア おしゃれな動物をつくることに興味をもてるように、空き箱を積んだり、並べたりするよさや飾り付けをするよさに気付くことができる参考作品を提示する。さらに、工夫して作品をつくることできるように、表現の途中で鑑賞の場を設定し、つくりたいおしゃれな動物のイメージを具体的にとらえられるようにする。

イ おしゃれな動物をつくることについて豊かに発想できるように、空き箱や折り紙などの材料の特徴を生かして試しに積んだり、組み合わせたりするなどし、材料の形や色などを基に自分のイメージをもてるようにする。さらに、飾り付けを工夫できるように動作化させたり、遊ばせたりしながら、おしゃれな様子を発想できるようにする。

ウ 自分や友達の表現のよさに気付くことができるように、見るポイントを基に製作途中でも互いの作品を見比べさせるようにする。その際、友達のよさに気付いた子どもを称賛することで、そのよさを全体へも広げていけるようにする。

エ 自分のつくりたいおしゃれな動物を作品に表すことができるように、はさみやのりの使い方について掲示資料を用意し製作途中でも振り返りながら表現できるようにする。そして、空き箱や紙皿、紙コップの材料の特性に合わせた丈夫な接合の仕方を子どもの作品の中から取り上げ、全体に広げたり、個別に指導したりする。

実態調査		2年は組40名 (4月中旬実施)	
1	図工が好きですか はい(36名)  いいえ(4名) ※1 (いいえの理由) ・よく失敗する ・アイデアがうかばない		
2	空き箱を使ってどんな動物をつくりたいか想像できますか。 はい(40名) ※2  いいえ(0名)		
3	空き箱を使ってつくった動物にどんな飾り付けをしたか思い付きますか。 はい(23名)  いいえ(17名) ※3 (はいの内容) ・ネックレス ・ブーツ ・リボン など		
4	友達と作品について話し合っ役立った経験がありますか。 ある(6名)  ない(34名) ※4 (あるの内容) ・アイデアがわく ・材料の使い方の工夫が分かる		
5	のりの適切な使い方について(実技) 使える(37名)  使えない(3名) ※5 (使えない内容) ・隅々までぬれない ・のりの量が適切でない		
6	はさみの適切な使い方について(実技) 使える(34名)  使えない(6名) ※6 (使えない内容) ・はさみの奥で切れない ・紙を回しながら切れない		



## 5 本 時 (4 / 7)

### (1) 目 標

- ア 鑑賞を通して、自分のつくりたい思いに合った飾り付けについて考え、表現に生かすことの楽しさを味わいながら、意欲的に製作をすることができる。
- イ 自分のつくりたい動物になるように、鑑賞を通しておしゃれな飾り付けについて考え、イメージを明らかにし、形や色などを工夫しながら製作することができる。
- ウ 形や色、丈夫さなどの見るポイントやイメージについて友達と話し合いながら、互いの作品のよさに気づき、自分の表現に生かすことができる。
- エ つくりたい動物になるように、はさみやのりなどの用具を適切に用い、丁寧な飾り付けをすることができる。

### (2) 本時の指導に当たって

鑑賞のよさを味わいながら表現できるように、自分の作品で工夫したところなどについて友達と話し合い、互いの表現のよさに気づくことができるようにする。話し合う場面では、ペアで話し合わせる。さらに、視点をもって話し合うことができるように、見るポイントやイメージについて話し合わせる。さらに、鑑賞で気付いたことを、表現に生かすよさを感じ取ることができるように、机間指導をしながら、鑑賞で学んだことを表現に生かしている子どもを称賛する。

### (3) 実 際

過 程	主な学習活動	時間 (分)	教師の具体的な働きかけ
動機付け 発想	1 自分の作品で工夫したところなどを確認する。 【鑑賞前】 【見るポイント】 ・体の形と色 ・飾り付けの形と色 ・丁寧さ、丈夫さ 【イメージ】 ・ライオンを強く見せるために、冠を付けました。冠の色を黄色や赤色でカラフルにして工夫しました。	5	○ 友達と話し合う際、自分の考えを伝えることができるように、前時まで考えた自分の作品で工夫したおしゃれについて確認させる。 ○ 紹介の仕方が理解できるように、参考作品を使って、教師が実際におしゃれな動物の紹介の仕方を見せる。
	2 学習のめあてについて話し合う。 ともだちとはなして、さらにおしゃれにしよう。		○ 話し合ったことを互いに理解できるように、イメージや飾り付けの形や色などについて紹介させる。
表現 鑑賞	3 自分の作品で工夫したところなどを紹介し合う。 【鑑賞中】 【見るポイント】 ・体の形と色 ・飾り付けの形と色 ・丁寧さ、丈夫さ 【自分】 【イメージ】 ・ライオンを強く見せるために、冠を付けました。冠の色を黄色や赤色でカラフルにして工夫しました。 【友達】 【イメージ】 ・冠を付けるとても強そうだね。靴を履かせたらもっと強そうに見えるんじゃないか	11	○ 視点をもって話し合いが進められるように、見るポイントとイメージ、話す順序について板書し、いつでも確認できるようにする。 ○ 話し合いが進まないペアには、机間指導を行い、「どんなキリンさんにしたいのかな。そのためにどんな飾り付けを工夫したのかな。」など発問する。
	4 紹介し合ったことを基に、これからしたい工夫について考える。 【鑑賞後】 【見るポイント】 ・靴の形と色 【イメージ】 ・靴先が、とがったかっこいい靴を履かせよう。色は冠と同じ黄色と赤色にしよう。		○ 鑑賞のよさに気付けるように、友だちのおしゃれな形や色の工夫や自分の作品に生かしたいことを発表する場を設け、賞賛する。
鑑賞	5 紹介し合ったことを生かして、作品をさらにおしゃれにする。	26	
評価	6 紹介し合ったよさやさらに工夫したところについて発表する。 【鑑賞のよさ】 ・鑑賞することで、自分の作品をもっと工夫しようと思った。そして、友達が頑張っているところも分かり、自分の作品に生かせると思った。 【工夫したところ】 ・靴の形が少しずつできてきました。もっと靴先をとがらせて、強そうに見せようと思っています。	3	○ 自分の表現が思いのままに展開できるように、のりやはさみの適切な使い方を掲示資料で振り返らせる。 ○ 鑑賞のよさを実感できるように作品で工夫したところを発表する場を設け、高まった自分の表現に気付かせる。